万が一にもしっかり備える、先進の安全技術を搭載。

幅広いシーンで安心の運転を支えます ※装備されるグレード等の詳細はEquipment(主要装備)をご確認ください





安全運転サポート車(サポカーS・ワイド)*1に該当

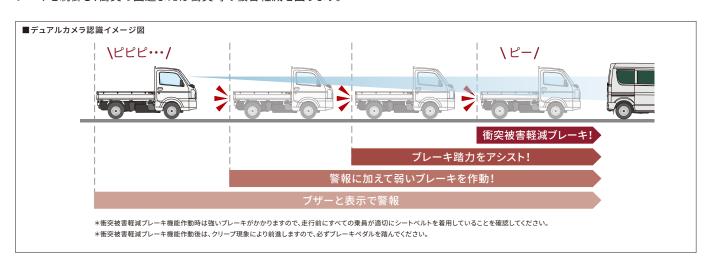
経済産業省や国土交通省などが普及啓発を推進している、高齢者を含む運転者を先進安全技術で支援し交通事故防止を図る「安全運転サポート車 (サポカーS・ワイド)」に該当しています。サポカーS・ワイドは、被害軽減ブレーキ(対歩行者)、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトを搭載した車です。



※1 KC(AT・セーフティパッケージ装着車)およびKX。*詳細についてはマツダオフィシャルウェブに掲載しております。上記QRよりご覧ください。

デュアルカメラブレーキサポート(衝突被害軽減システム) 運転支援機能 *2*3*4*5*6 〈標準装備: KX、メーカーセットオプション(セーフティパッケージ): KC(AT車)〉

2つのカメラで前方の車両や歩行者を検知し、衝突のおそれがあると判断すると、ブザー音やメーター内の表示によってドライバーに警告。 衝突の可能性が高まると弱いブレーキを作動。その間ブレーキペダルを踏むとブレーキ踏力をアシスト。さらに衝突の可能性が高まるとブレーキを制御し、衝突の回避または衝突時の被害軽減を図ります。



↑ ※2 状況によっては正常に作動しない場合があります。※3 対象物、天候状況、道路状況などの条件によっては、衝突を回避または、被害を軽減できない場合があります。※4 ハンドル操作やアクセル操作による回避行動を行っているときは、作動しない場合があります。※5 ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

誤発進抑制機能[前進時] (運転支援機能) *2*3*4*5*7 〈標準装備: KX、メーカーセットオプション(セーフ ティパッケージ): KC(AT車)〉

駐車場などで、前方に壁などがあるにも関わらずシフトを5MT車はR以外、4AT車はD、2、L(前進)の位置でアクセルペダルを強く踏み込むと警告音が鳴り、さらに強く踏み込み続けると最長約5秒間、エンジン出力を制御。急発進・急加速を抑えて、踏みまちがいなどによる衝突回避に貢献します。



車線逸脱警報機能*2*5*9〈標準装備:KX、メーカーセットオプション(セーフティパッケージ):KC(AT車)〉

走行中に左右の区画線を検知して進路を予測。前方不注意などで 車線をはみ出しそうになると、ブザー音などの警報によってドライ バーに注意を促します。

■イメージ図



先行車発進お知らせ機能*2*5*11〈標準装備:KX、メーカーセットオプション(セーフティパッケージ):KC(AT車)〉

停車中、前のクルマが発進して約4m以上離れても停車し続けた場合、ブザー音やメーター内の表示によって、ドライバーに先行車の発進をお知らせします。



誤発進抑制機能[後退時/ブレーキ制御付] *2*3*4 〈標準装備: KX、メーカーセットオプション(セーフ ティパッケージ): KC(AT車)〉

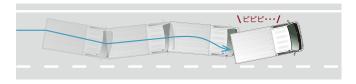
リアバンパーに装着した4つの超音波センサーで後方の障害物との距離を測り、4段階のブザー音とメーター表示で障害物の接近をお知らせする「リアパーキングセンサー」を搭載。そして、後方に障害物があるにも関わらずシフトをR(後退)の位置でアクセルペダルを踏み込むと警報音が鳴り、エンジン出力を制御して急な後退を防止。また、後方の障害物に衝突するおそれがあるとシステムが判断した場合、ブレーキを制御し、うっかり誤操作による衝突回避または衝突被害軽減に貢献します。



ふらつき警報機能*2*5*10〈標準装備:KX、メーカーセットオプション(セーフティパッケージ):KC(AT車)〉

走行中に左右の区画線を検知して、自車の走行パターンを計測。 車両が蛇行するなど、システムが「ふらつき」と判断した場合、ブ ザー音などの警報によってドライバーに注意を促します。

■イメージ図



ハイビームアシスト機能*2*5*12〈標準装備:KX、メーカーセットオプション(セーフティパッケージ):KC(AT車)〉

ヘッドランプをハイビームにして走行中、前方に対向車や先行車がいたり、明るい場所を走行すると自動でロービームに。対向車や先行車がいなくなったり、周囲が暗くなると自動でハイビームに戻ります。

■イメージ図



↑ 《作動条件〉※6 自車速度約5km/h~約85km/hで走行中、前方の車両や歩行者を検知し、システムが衝突の可能性があると判断した場合。作動したときの速度が約5km/h~約50km/h(歩行者の場合は約5km/h~約30km/h)であれば、衝突を回避できる場合があります。なお、警報およびブレーキアシストは約100km/hまで作動します。周囲の環境や対象物の動きなどによっては、警報のみでブレーキが作動しない場合があります。また、警報と同時に衝突被害軽減ブレーキが作動する場合があります。※7シフトが5MT車はR以外、4AT車はD・2・Lの位置で停車または徐行中(約10km/h以下)、前方約4m以内に障害物を検知している状態で、アクセルペダルを強く踏み込んだ場合。※8 停車または約10km/h以下で後退中、後方約3m以内に障害物を検知している状態で、アクセルペダルを強く踏み込んだ場合。※9約60km/h以上で走行中、車線の左右区画線を検知し、進路を予測。システムが車線をはみ出すと判断した場合。※10約60km/h以上で走行中、車線の左右区画線を検知し、自車の走行パターンを計測。システムが「ふらつき」と判断した場合。※11シフトが5MT車はR以外、4AT車はD・2・L・Nの位置でブレーキ操作をして停車中、先行車が発進して約4m以上離れた場合。※12約30km/h以上で走行中、ライトスイッチレバーのつまみを「AUTO」の位置にし、ヘッドライトが点灯した状態でレバーを車の前方向に押し、ハイビーム位置にしているとき。

●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。